

生殖医療の拠点 岡大病院に開設

岡山大病院は10月、生殖医療に特化した「リプロダクションセンター」を院内に開いた。不妊治療、受精卵の操作技術、母子支援など、幅広い分野をワンストップの窓口を集約して、先進医療を包括的に提供できる体制を目指す。

生殖医療は、精子、卵子から妊娠、出産まで扱う。医学の進歩で、顕微授精やがん患者の精子や卵子、卵巣の凍結保存など先進的な技術の重要性が増し、不妊や流産を繰り返す不育に悩む人たちの心のケアや生命倫理の問題など幅も広がっている。

岡山大の中塚幹也教授は、センターでは、産婦人科、がん診療科、遺伝カウ

ンセリング、農学部の胚操作技術、性教育など、生殖に関わる領域を融合して、学内の人材と技術を生かし、臨床と専門家育成、基礎研究を進める拠点にしていくとしている。